



最高の未来をビルドしよう

アイデアを素早くカタチに。



エンジニアが本来の業務・開発だけに集中でき、アイデアを素早くカタチにできる環境を CircleCI が実現します。前回、本番環境にコードをプッシュした時のことを思い出してください。決して簡単ではなかったはずですが、CircleCI を使えば、ユーザーがコミットするたびに、ビルドが実行されます。依存関係のインストールやテストを自動で行い、ビルドに問題がないかチェックできるだけではなく、デプロイ作業を自動化して行うことも可能です。

設定はコードで管理されるので、パッケージを更新したりビルドするためのマシンの起動を待つ必要はありません。つまり、作業のスピードが上がるだけでなく、問題が大きくなる前にバグを発見して素早く修正することができます。また、プロジェクトの内容に関わらず、開発スピードを底上げし、ユーザーに素早くプロダクトを届けることが可能になります。

ビルド・テスト・デプロイを CircleCI で効率化

mercari

CyberAgent.

LINE

facebook

無料で始める circleci.jp

スケーラビリティ、安定性、一貫性を備えた CircleCI

2,500万

月間ジョブ数
2017年時点では 300万件

50万以上

CircleCI を使用する開発者数
2017年時点では 17.5万人

230名以上

全世界の従業員
2017年時点では 75名

CircleCIの特色



制限付きコンテキスト

- ・ シークレットを一元管理して複数のチームで共有
- ・ 安全な環境内で柔軟性と自動化を実現



多言語サポート

- ・ Linux, macOS および Windows 上でのビルドに使用可能なあらゆる言語をサポート (C++, JavaScript, .NET, PHP, Rubyなど)



SSHとローカルビルド

- ・ YML ファイルをバリデーションして、コンフィグを簡単に更新
- ・ ジョブのローカルビルドによって問題をすばやく修正



Docker のフルサポート

- ・ コンテナ化とマイクロサービスのサポートにより、チームのアプリケーションコードベースの長期的な安定性を確保
- ・ Docker で動画する場合は CircleCI でも実行可能



Orbs

- ・ CircleCIのコンフィグで一般的に使用されるコードを、再利用可能なパッケージに統合
- ・ 単一の orb を変更することで、プロセスを標準化し、複数プロジェクトのコンフィグを更新
- ・ CircleCI、パートナー、コミュニティが作成した Orbs を利用可能

CircleCIユーザコミュニティとは？

開発者がプロダクトを高品質かつ迅速にデリバリーし、幸せな開発者ライフをビルドするために、CircleCIやCI/CDについて勉強会や意見交換を行う場所です。コミュニティグループへの参加は無料で、CircleCIに興味を持っていらっしゃる有志の皆さんが運営していらっしゃいます。

以下のような方々に参加をオススメします：

- ・ 初心者から上級者まで、CircleCIを使ってみたい or 使っている
- ・ NoOps・DevOps を実現したい or 実現した
- ・ リリースにかかる時間や工数を削減したい or 削減した
- ・ テスト文化・自動化文化を社内外に広めたい or 実践している

CircleCIユーザコミュニティへの参加はこちら



circleci.com/pass.com/

Jenkinsからの移行

Jenkinsは無料ですが皆さんの時間は無料ではありません。日常的に発生する管理者への依頼やプラグインのメンテナンスは、開発者のパフォーマンスを低下させプロジェクトの進行を妨げてしまいます。



運用者のための生産性とセキュリティ

運用者や管理者は既存ツールのトラブル対応ではなくパフォーマンス向上に集中できます。またCircleCIはセキュリティを損ねることなく、増加する開発者に合わせてスケールしていくことが可能です。



開発者のための快適な開発環境

CircleCIは開発者を運用上のボトルネックから解放し、コードベースの設定で柔軟なテスト環境を提供します。

	CircleCI	Jenkins
初期設定	<ul style="list-style-type: none">VCS(GitHubやBitbucket)を利用してUI上からセットアップができリポジトリをプロジェクトとしてインポート可能*	<ul style="list-style-type: none">ビルド用のマシンにJenkinsをインストールし、VCS、UIなどの必要なプラグインを組み込む部門間にまたがるプラグインサポート
セキュリティ	<ul style="list-style-type: none">アプリケーションレベルのセキュリティー + 実行環境のアイソレーション追加のセキュリティアレイヤーがソースコード、環境変数、出力結果を保護	<ul style="list-style-type: none">追加のセキュリティ設定は手作業で組み込みが必要さまざまなOSSプラグインのセキュリティ
パーミッション	<ul style="list-style-type: none">VCS側でのユーザー認証、ユーザー追加VCSで設定したパーミッションの自動付与	<ul style="list-style-type: none">デフォルトでは、全てにフルアクセスできる権限が付与される。 手作業で権限設定が必要
コンフィギュレーション	<ul style="list-style-type: none">1つの設定ファイル(YAMLファイル)に利用する機能や設定を記載	<ul style="list-style-type: none">数多くのプラグインを使い、いくつか記法とベストプラクティスを組み合わせる必要がある
パフォーマンス	<ul style="list-style-type: none">ジョブを効率的に完了させるため、CPUやRAMを柔軟に割り当てることができる依存関係のキャッシュ、Docker Layer Cachingの機能がある	<ul style="list-style-type: none">プラグインのパフォーマンスに依存すJenkinsのパフォーマンスを向上させるためにプラグインの利用や、マシンのアップグレードが必要
メンテナンス	<ul style="list-style-type: none">新しい機能がリリースされたら、すぐに利用できる	<ul style="list-style-type: none">さまざまなタイミングで更新されるプラグインと、サーバーのメンテナンスが求められる

*CircleCIはオンプレミス版も提供しています

CircleCIへのアップグレード

CircleCIで迅速かつ安全にスケールさせる



宣言的な設定

CircleCIは開発者が変更可能なYAMLコンフィグの中に全ての設定を書き込み、複数のプロジェクトや組織間でCircleCIのYAMLコンフィグを再利用したり共有することができます。



カスタマイズ可能なワークフロー

CircleCIは、並列ジョブ、コードレビュー、実行環境のアイソレーション、CPU やメモリの変更などを宣言的なファイルの中で簡単に設定できます。



セキュアな環境

CircleCIには、機密情報の暗号化や、実行環境のアイソレーション、ソースコードと生成されたアーティファクトに対する保護、および運用者向けのアプリケーションレベルのセキュリティとアクセス許可の制御が組み込まれています。



容易なスケール

CircleCIはスケールが可能なようにつくられています。CircleCIの利用が増えてもコスト増加がなく、また開発者にとってもストレスを感じることなく利用を広げていただけます。



将来を見越したアーキテクチャデザイン

CircleCIは、1st クラスDockerサポートを使用してマイクロサービスアーキテクチャとコンテナ化をサポートするようにゼロから構築されているため、将来に渡るDevOpsツールチェーンを構築できます。

無料で始める circleci.jp